

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

|              |   |      |  |     |  |
|--------------|---|------|--|-----|--|
| 都道府県名        | 福井県   | 市町村名 |  | 大学名 |  |
| 派遣日          | 令和4年11月25日(金) 14:00~15:30   |      |  |     |  |
| 実施方法         | ※いずれかに○をつけてください。 派遣 / (遠隔)  |      |  |     |  |
| 派遣場所         |   |      |  |     |  |
| アドバイザー氏名     | 上越教育大学大学院学校教育研究科<br>准教授 原瑞穂氏  |      |  |     |  |
| 相談者          | 福井県教育庁義務教育課教科指導グループ   |      |  |     |  |
| 相談内容         | <ul style="list-style-type: none"><li>・児童生徒の実態に応じた日本語指導</li><li>・教科の力を育成するための指導方法</li><li>・多文化共生社会の学校づくり</li></ul>  |      |  |     |  |
| 派遣者からの指導助言内容 | <ul style="list-style-type: none"><li>・母語と日本語の2つの言語の力について<br/>滞在年数がたつにつれて、日本語の会話力や読解力は上がっていく。しかし、母語の力は弱くなっていく。そのため、家庭では母語を大切にしながら、親子間でコミュニケーションをとることが求められる。</li><li>・JSL 評価<br/>ステージ1から6に分けて、支援の段階や内容が講師より示された。ステージが上がるにつれて、教科内容に関連した内容が理解できるようになり、授業に興味をもって参加しようとするレベルになる。読み書きにも抵抗感は少なくなり、自律的に学習しようとする態度が見られる。必要に応じて支援は欠かせないので、個別に対応が必要になってくる。</li><li>・学級と取り出し授業の連携<br/>転入してきたばかりの児童生徒に対して、在籍学級での過ごし方や担任の配慮について助言があった。転入間もない時期に、その児童生徒に学級全体に対して、日本語で自己紹介をする機会を与える場合がある。しかし、その児童生徒にとって意味のあることにはならない。そのため、その児童生徒が学校生活に慣れたり、日本語の習得が進んだりした場合に自己紹介する場を設定するなど、外国籍児童生徒の立場に立った配慮をしていく必要がある。</li><li>・ライフコースを支える視点<br/>協議会参加者に、外国籍児童生徒の葛藤や苦しみについて考える機会が与えられた。ある大学院生の語りを音声で聞いた。その語りを通して、青年が自身のアイデンティティを確立する際いろいろな葛藤や苦しみを味わったことが伝わってきた。日本語の習得だけでなく、児童生徒が自分自身にしっかり向き合い、幸せな生活を送っていけるよう児童生徒に関わっていくことの大切さを協議会参加者が一人一人感じ取ることができた。</li></ul> |      |  |     |  |

(様式3)

|                    |  |
|--------------------|--|
| 相談後の方針の変化、今後の取組方針等 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今回の講義で母語支援の必要性を知り、今後の支援につなげていきたい。</li><li>・ 外国籍児童生徒の「日本人」像をめぐるアイデンティティの確立に、教師はどう支援していくとよいか考えていく必要がある。</li><li>・ 今後も今回のような有識者を講師とした連絡協議会を設け、日本語指導に係る関係者が教師間で連携を図りながら、専門的な知識を深めていけるようにしたい。</li></ul> |
|--------------------|--|

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。